

日本産チョウについて「美しすぎる蝶のランキング」をするとしたら、ミヤマカラスアゲハはおそらくそのトップ5には入るだろう。特に、北海道や信州山岳部の春型にみる金緑色鱗粉の美しい輝きは、自然の神秘をさえ感じさせる美しさだ。

昆虫少年時代を過ごした高知では、大豊郡の梶が森:海拔1,400mの山頂部に上昇気流にのって現れ、悠々と飛ぶ大型の夏型本種との出会いが楽しみで、その翅表鱗粉の濃い青緑色のビロード調輝きがみごとだと思ったが、1979年5月に信州白馬南股で初めてみた、ツツジの花を訪れた春型の金緑色の輝きは一瞬にして筆者を魅了してしまった。完璧に新鮮な春型個体を得るべく、1984年8月29日に麦草峠で捕獲した♀汚損個体から採卵し、車で1時間はかかる七草山まで代用食のコクサギをとりゆくなどして1985年4月に羽化させた春型♂の標本は、今でもその美しさを保っている。以下は北海道蝶紀行、および自然観察ノート：blogから。



June 24, 1996 上川郡愛別町

まずはJR愛別駅方向にもどって、近くにみえる山すそを探索する。ミニサイクルなのでなかなか距離が伸びないが、ぜいたくはいわない。街のお祭があるとかで、大きなのぼりを立てた農家が散見できる道をどんどん進むと、やがて長い坂道が左にカーブして登っていく。その右手前



民家の庭先にシバザクラがみごとなピンクの絨毯を広げていてミヤマカラスアゲハが訪れている。後翅の尾状突起 (swallowtail) が破損しているが、第一化春型特有の青みがかった緑色がシバザクラのピンクによく映えて美しく、しばらく Video 撮影を楽しむ。もう6月末だというのに、四国や近畿では早春だけにしか見られない可憐なツマキチョウがいて、北海道を実感する。急なせまい荒れた山道をいくらか登った草原でヒメウスバ

シロチョウをしとめ、さらに山肌の灌木を縫うようにしてミヤマカラスアゲハが降りてくるのを早業でネットイン。6月だが第一化春型のコバルトブルーがひととき美しい♂である。この辺りのミヤマカラスアゲハは発生初期とみえてみごとな新鮮体であり、山肌に蝶道を形成して飛交う個体が少なくない。そこで、この蝶道を利用して「おとり捕獲作戦」を試みる。先ほど捕まえた♂を、翅表の輝きが太陽光線にあたるように広げて、蝶道となっている畑地の湿り気のある一角に静置しておくのと、次々とあたらしい♂が集ってくるという仕掛で、1962年8月、筆者にとっては高知県外への初の一人旅であった信州蝶採集を経験させてもらえた長野県下諏訪市の津田進さんが実践をもって教えてくれた方法だ。案の定、ものの数分も経たないうちに複数の♂が集ってくる。



June 25 and 28, 1996 愛山溪

いよいよ広いアスファルト道路を奥へと入って行く。スモモの木がある人気のない人家庭周辺を大きなミヤマカラスアゲハが飛ぶ。道は次第に勾配をあげ、あたりの木々がいかにも北海道という感じとなり、ミヤマカラスアゲハが次から次へと、道路上をまっすぐに上手からこちらに向かって飛んでくる。愛別町に比べていずれも新鮮度は高くないが後翅鱗粉は信州産よりも幅広く美しく輝いてみえる。遠くにその姿を認めた時点で自転車を止め、蝶道を予測してネットを構え、テニスで鍛えた動体視力とすばやいスイングでネットインする。ただ、あまりに勢いよくネットを振ると、かよわい swallowtail 部分が折れたり、破れたりして、標本としての価値がなくなってしまう。この日も、数頭がそういう目にあってしまい、開放したネットから、危ない目にあったものだと、急いで自然の中へと舞い戻っていった。



May 17, 2016 雨上がりに舞うチョウ

本格的な雨のあと好天気になるとチョウが飛び遊ぶ習性に期待して、タニウツギが咲く山岳部の溪谷へと遠征。蝶友が教えてくれた溪流沿いのあちこちにタニウツギが咲き、期待通り黒系アゲハが複数頭舞っている。多くが、山麓部急斜面の高い位置や、道路急斜面下の溪流沿いや崖部分に咲くタニウツギで蜜を求めている。急斜面の上も下も、アクセスが容易ではなく、



滑り落ちないように足を踏ん張り、支えとなる植物を探して右往左往する。新鮮度が落ちる個体でも溪流を背景に羽ばたきながら夢中で蜜を吸うミヤマカラスアゲハの輝きに魅了される。オナガアゲハもクロアゲハやミヤマカラスアゲハと追飛翔を繰り返しながら吸蜜場所を転々と移動するが、きれいな画像記録はとれず。

May 22, 2017 山岳部溪谷のチョウ

朝からの好天気に期待して兵庫県山岳部の溪谷へと遠征。11 時前についた溪谷沿いでタニウ



ツギは 9 分咲き。複数のオナガアゲハがやってきており、やがてミヤマカラスアゲハの♂も花蜜を求めて飛来する。影となった部分での撮影記録はきれいな色調が十分撮り込めていなく、転飛する際の飛翔場面を切り取れば、許される程度に春型のブルーを確認できる。

May 22, 2020 タニウツギが咲く溪谷へ

黒系アゲハに会うために兵庫県山岳部のタニウツギが咲く溪谷へと遠征。9 時 15 分発、途中、道の駅に立ち寄りたりして 11 時 10 分に到着した現地にミツバウツギの白い花はなく、アオバセセリはいないしウスバシロチョウの姿もない。タニウツギにはクロアゲハの♂がやってきて楽し気に吸蜜し、ミヤマカラスアゲハは蝶道を形成してもっぱら溪流の上を飛んでいく。昼食を済ませ、対岸の湿地帯を舞うミヤマカラスアゲハに注意していると溪流沿いの湿めった路面に降りて吸汁し始める。ビデオカメラの望遠モードでミヤマカラスアゲハだと判別できるが、川幅が広く水の深さもわからないため溪流を渡ることはできない。すぐ妻に頼んで対岸へと車で迂回して所要 5 分。まだいてくれるかなと溪流まで走りおけると、夢中で吸汁を続けるミヤマカラスアゲハの黒い影が見える。



タニウツギがもっと多い溪谷へと転戦すると、大雨のせいか崩落した法面の修復工事のためにタニウツギの樹が半減しているが、クロアゲハ、オナガアゲハ、ミヤマカラスアゲハはいずれもが時間間隔をあけて訪花する。ミヤマカラスアゲハの♀がいれば捕獲して採卵目的で連れ帰るつもりでいたのだが、幸



い翅がかなり傷んだ個体が吸蜜しにやってきたところをビデオ撮影してからネットイン。鉢植えのキハダに産卵してくれることを期待する。